

参考文献リスト(5-1 暖冬によるナシ栽培への影響調査)

No.	著者(公表年)、文献名、学術誌名、巻(号)、ページ	概要	URL
1	Tamura, F., Tanabe, A. and Itai, A. (1997) A model for estimating rest completion for 'Nijisseiki' pear. <i>Environment Control in Biology</i> , 35(3):185-189.	鳥取県における'二十世紀'の萌芽観測データに基づき、休眠打破を予測するためのCill unitモデルを作成した。低温積算量(chil unit)が1,200に達するまでは8℃以下の気温を休眠打破に有効として計算するが、-4℃以下の気温は効果がないと評価するもの。この論文では、'二十世紀'の休眠打破に必要な低温積算量を1,400としている。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/ecb1963/35/3/35_3_185/_article
2	杉浦俊彦, 本条均 (1997) ニホンナシの自発休眠覚醒と温度の関係解明及びそのモデル化. <i>農業気象</i> , 53(4):285-290.	ニホンナシの'幸水'を用いて室内実験を実施し、その結果を用いて気温から自発休眠打破を予測するモデルを構築した	https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet1943/53/4/53_4_285/_article/-char/ja/
3	本条均 (2007) 気候温暖化が落葉果樹の休眠、開花現象に及ぼす影響. <i>園芸学研究</i> , 6(1):1-5.	気候の温暖化がニホンナシなど落葉果樹の休眠及び開花に及ぼす影響について、既往知見を整理した。	http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10471512_po_ART0008220747.pdf?contentNo=1&alternativeNo=
4	杉浦俊彦, 黒田治之, 杉浦裕義 (2007) 温暖化がわが国の果樹生育に及ぼしている影響の現状. <i>園芸学研究</i> , 6(2):257-263.	気候の温暖化による果樹への影響について、都道府県の試験研究機関を対象にヒアリングを実施し、温暖化による影響を開花期と成熟期がともに前進する「果実生育期前進タイプ」と、開花期が前進する一方、必ずしも成熟期は前進しない「果実生育期延長タイプ」に区分。後者では、着色不良や大玉化など品質に関する変化が顕著であることを示した。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/hrj/6/2/6_2_257/_pdf/-char/ja
5	戸谷智明, 川瀬信三 (2011) 気温上昇が千葉県内におけるニホンナシ'幸水'の休眠期と開花期に及ぼす影響. <i>園芸学研究</i> , 10(4):531-536.	千葉県の3地点において、ニホンナシ'幸水'の休眠期と開花期について調査し、既存モデルを用いて温暖化の影響を予測した。市川市と一宮町では、自発休眠打破日は低温積算量の減少にともなって1年当たり0.42~0.52日遅延しており、一宮町では0.59℃以上の気温上昇で自発休眠が不完全になることを予測した。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/hrj/10/4/10_4_531/_article/-char/ja/
6	竹村圭弘・竹内ゆかり・荒木駿吾・田村文男 (2016) メッシュ農業気象データを利用した鳥取県におけるニホンナシ栽培可能地域の将来予測. <i>園芸学会中四国支部平成28年度大会</i> , 55:9.	農環研のメッシュ農業気候値と低温積算量に基づくニホンナシの栽培適地モデル(改良前)を用いて、鳥取県における1~4℃上昇時の自発休眠打破日を予測した。	-
7	Tamura, F., Tanabe, A., Itai A. and Morimoto., M. (2001) Variation in the chilling requirement for breaking leaf bud endodormancy in wild pear species and pear cultivars. <i>J. J. Soc. Hort. Sci.</i> , 70 596-598.	ナシの野生種と栽培品種を対象として、萌芽率の季節変化を調査し、葉芽の自発休眠打破に要する低温要求量を明らかにした。主要なニホンナシにおいては、'豊水'の低温要求量が最も少なく、次いで'幸水'、'二十世紀'、'新高'という順であることを示した。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/jshs1925/70/5/70_5_596/_pdf/-char/en
8	杉浦俊彦, 杉浦裕義, 阪本大輔, 朝倉利員 (2009) 温暖化が果樹生産に及ぼす影響と適応技術. <i>地球環境</i> , 14(2):207-214.	温暖化による果樹生産への影響について、発芽・開花における影響、果実着色の不良・遅延、果実品質などに関する影響、気象災害による影響について概要をまとめるとともに、ウンシュウミカンとリンゴを対象とした影響予測を実施し、それぞれの影響について適応策の概要をとりまとめた。	http://www.airies.or.jp/attach.php/6a6f75726e616c5f31342d326a706e/save/0/0/14_2-11.pdf
9	黒木克翁, 竹村圭弘, 松本和浩, 武田 誠, 富山政之, 田村文男 (2013) シアナミド処理がニホンナシ主要品種の自発休眠打破および開花期に及ぼす影響. <i>園芸学研究</i> 12(2): 179-185.	ニホンナシ'幸水'および'ゴールド二十世紀'の休眠期の枝にシアナミドならびに2過酸化水素水溶液を浸漬処理し、腋花芽の萌芽に及ぼす影響を調べた。萌芽の促進に対する効果はシアナミドが過酸化水素よりも高く、特にChill Unit (CU.)600での1.0%シアナミド処理が最も休眠打破効果が高かった。また、腋花芽における休眠打破の反応は、'幸水'および'ゴールド二十世紀'ではCU.600、'豊水'ではCU.600~900、'新高'ではCU.900に行った処理が効果的であること、処理濃度は1.0%が効果的であることが明らかとなった。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/hrj/12/2/12_179/_pdf
10	朝倉利員, 杉浦裕義, 阪本大輔, 杉浦俊彦 (2008) 生育予測モデルを利用したニホンナシの休眠・開花に対する温暖化影響の評価. <i>日本農業気象学会 2008 年全国大会講演要旨</i>	ニホンナシについて、全国レベルで利用可能で温暖化影響評価にも使える休眠・開花予測モデルを開発するとともに、秋から春にかけて温度上昇した場合の休眠・開花に対する影響をモデルを用いて評価した。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/agrmet2/08sp/0/08sp_0_54/_article/-char/ja
11	竹村圭弘(2012) ニホンナシの芽の自発休眠機構並びに低温要求性の遺伝様式に関する研究. 鳥取大学学位論文	ナシの自発休眠打破に関して、品種ごとの低温要求量の推定、自発休眠導入の気象要因とその機構、自発休眠に関与する遺伝子及びタンパク質などに関する研究結果をとりまとめは学位論文。	https://cinii.ac.jp/naid/500000569784?i=en